

平成30年度小牧市人・農地プラン座談会での主な意見

●人・農地プラン座談会（東部地区）

日 時 平成30年12月10日（月）

午後2時～午後3時10分

場 所 J A尾張中央本店 3階 大会議室

出席者 30名

小牧市農業委員会委員及び小牧市農地利用最適化推進委員

認定農業者及び認定新規就農者

市内関係支部長（農業振興地域の方）

多面的機能支払交付金活動組織

《主な意見》

- ・農地の受け手として、(有)アグリ尾張中央に大規模に農地集約してもらいたい。例えば大山区全体（14ha 規模）等。現状は農業存続不能な所有者の申し出により借り受けているため、局部的であり、農地を集約しているとは言いがたく、作業効率等も考えられていないのでは。
- ・小牧市の農地中間管理機構の活用方針が知りたい。現在は、農協委託が主流だが、市と農協の関係性が分かりづらい。

●人・農地プラン座談会（西部地区）

日 時 平成30年12月19日（水）

午後2時～午後3時40分

場 所 J A尾張中央小牧支店 2階 会議室

出席者 19名

小牧市農業委員会委員及び小牧市農地利用最適化推進委員

認定農業者及び認定新規就農者

市内関係支部長（農業振興地域の方）

《主な意見》

- ・ジャンボタニシの被害が多発している。個人が薬品購入等で対応しているが、市や農協において対策を行うべきではないか。
- ・生産緑地の設定について、開発により自己所有地が建築物の奥に位置してしまうと農地以外の活用ができない。今後の状況を検討してほしい。
- ・農業用水について、東部地区のようにパイプラインにバルブを設置し、必要な時期にいつでも取水できるよう工夫してほしい。稲作以外の作目も耕作できるようになるのでは。
- ・農業振興地域内においては、開発規制が厳しくトラック運送業などの特定の事業者の進出が目立ち、商業施設や医療機関などが少ないため、住みにくく感じる。農業の後継者に定住してもらうためにも、住民の利便性を向上させるため、商業施設の誘致等も必要ではないか。